

令和6年6月21日

盛岡 広域振興局長

提出者
住所 〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号
氏名 学校法人 岩手医科大学
理事長 祖父江 憲治
(法人にあっては、その名称及び代表者の氏名)

地球温暖化対策実施状況届出書

県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例第83条の規定により、地球温暖化対策の実施状況について、次のとおり届け出ます。

1. 事業者に関する事項

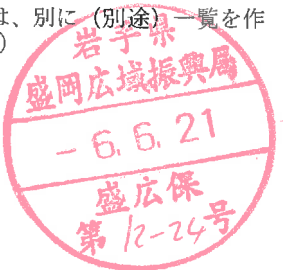
主たる工場又は事業場の名称	矢巾キャンパス	*整理番号	
主たる工場又は事業場の所在地	〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号	*受理年月日	年 月 日
エネルギー使用量	15,482 kl	*施設番号	
自動車の使用台数	台		
二酸化炭素の排出の状況	別紙のとおり。		
二酸化炭素の排出の抑制のための措置状況			
その他の地球温暖化の対策の実施状況			
変更年月日及び理由	年 月 日		
エネルギーの使用の合理化等に関する法律第19条第1項に定める連鎖化事業者			

2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧

工場等の名称	工場等の所在地	エネルギーの使用量
附属病院	〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号	8,137 kℓ
矢巾キャンパス	〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号	3,604 kℓ
内丸メディカルセンター	〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1	3,371 kℓ

備考1 *印の欄には、記載しないこと。

- 2 エネルギー使用量の欄は県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例施行規則第39条第1項に規定する工場又は事業場に該当する場合に、自動車の使用台数の欄は同条第2項に該当する場合に記載すること。
- 3 エネルギー使用量については、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則（昭和54年通商産業省令第74号）第4条の方法により原油の数量へ換算した量を記載すること。
- 4 変更計画書の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 5 2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧の記載欄が足りない場合には、別に（別途）一覧を作成の上、添付してください。（A4）



2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧の記載欄が足りない場合の記載欄

工場等の名称	工場等の所在地	エネルギーの使用量
店舗棟	T028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号	195 kℓ
やはばなかよし保育園	T028-3609 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番2号	51 kℓ
本町キャンパス	T020-0015 岩手県盛岡市本町通り三丁目16-1	40 kℓ
医療専門学校	T020-0021 岩手県盛岡市上の橋町1-12	31 kℓ
ドクターヘリ基地ヘリポート	T028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番	21 kℓ
旧PET・リニアック先端医療センター	T020-0021 岩手県盛岡市中央通一丁目4-10	15 kℓ
木の花会館	T020-0015 岩手県盛岡市本町通一丁目17-5	9 kℓ
旧附属花巻温泉病院	T025-0305 岩手県花巻市台第2地割85-11	5 kℓ
上田文書庫	T020-0021 岩手県盛岡市上田二丁目	2 kℓ
緑ヶ丘グラウンド	T020-0068 岩手県盛岡市箱清水一丁目1	0 kℓ
		kℓ
		kℓ
		kℓ
		kℓ
		kℓ

別紙 その1 (工場又は事業者用)

1 温室効果ガスの排出状況

(1) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量

エネルギーの種類		(令和5)年度						E=B-D	二酸化炭素排出 量 (t-CO ₂)	前年度二酸化炭 素排出 量 (t-CO ₂)	前年度比二化 炭素排出 量 (t-CO ₂)		
		エネルギーの使用量		販売したエネルギー使用量		E=B-D	二酸化炭素排出 量 (t-CO ₂)						
		数量 A	単位 B	数量 C	単位 D								
化石燃料	原油(コンデンセートを除く)		kL		kL								
	原油のうちコンデンセート(NGL)		kL		kL								
	揮発油(ガソリン)		kL		kL								
	ナフサ		kL		kL								
	ジェット燃料		kL		kL								
	灯油	7,99	kL	292	kL	292	20	23	-3				
	軽油		kL		kL								
	A重油	3,615.25	kL	149,633	kL	149,633	9,552	11,483	-1,531				
	B・C重油		kL		kL								
	石油アスファルト		t		t								
	石油コークス		t		t								
	石油ガス	30.90	t	1,548	t	1,548	93	97	-4				
	液化石油ガス(LPG)		千m ³		千m ³								
	石油系炭化水素ガス		千m ³		千m ³								
	液化天然ガス(LNG)		t		t								
	その他可燃性天然ガス		千m ³		千m ³								
	石炭	輸入原料炭		t		t							
		原料炭		t		t							
		コークス用原料炭		t		t							
		吹送用原料炭		t		t							
一般炭			t		t								
国産一般炭			t		t								
輸入無煙炭			t		t								
石炭コークス			t		t								
コールター			t		t								
コークス炉ガス			千m ³		千m ³								
非化石燃料	高炉ガス		千m ³		千m ³								
	発電用高炉ガス		千m ³		千m ³								
	転炉ガス		千m ³		千m ³								
	都市ガス	3,348.57	千m ³	150,686	千m ³	150,686	6,993	6,065	926				
	その他の燃料 ()												
	()												
	黒炭		t		t								
	木材		t		t								
	木質炭材		t		t								
	バイオエタノール		kL		kL								
	バイオディーゼル		kL		kL								
	バイオガス		千m ³		千m ³								
	その他バイオマス		t		t								
	RDF		t		GJ/t								
	RPF		t		GJ/t								
	廃タイヤ		t		GJ/t								
	廃プラスチック(一般廃棄物)		t		GJ/t								
	廃プラスチック(産業廃棄物)		t		GJ/t								
廃油		kL		GJ・kL									
廃棄物ガス		千m ³		千m ³									
混合炭材		t		t									
水素		t		t									
アンモニア		t		t									
その他燃料 ()													
小計①							293,158	17,057	17,669	-612			
熱	産業用蒸気		GJ		GJ								
	産業用以外の蒸気		GJ		GJ								
	温水		GJ		GJ								
	冷水		GJ		GJ								
	地熱		GJ		GJ								
	温泉熱		GJ		GJ								
	太陽熱		GJ		GJ								
	水素熱		GJ		GJ								
	小計②												
	電気事業者①	33,570.56	千kWh	290,050	千kWh	290,050	16,013	16,637	-624				
電気	電気事業者② 出稼数契約している場合使用		千kWh		千kWh								
	自己託送(非燃料由来を除く)		千kWh		千kWh								
	太陽光	131.29	千kWh	473	千kWh	473							
	水力		千kWh		千kWh								
	風力		千kWh		千kWh								
	その他	1,551.38	千kWh	16,385	千kWh	16,385							
	小計③						306,907	16,013	16,637	-624			
合計④=①+②+③							600,065	33,070	34,306	-1,236			

(2) 原油換算エネルギー使用量=(1)のエネルギー合計使用量×0.0238)

原油換算エネルギー使用量	18.629	kL
--------------	--------	----

(3) 温室効果ガスの総排出量

区 分		温室効果ガスの排出量	
二酸化炭素の排出量	エネルギーの使用に伴って発生する二酸化炭素	33,070	t-CO ₂
	上記以外の二酸化炭素		t-CO ₂
メタンの排出量			t-CO ₂
一酸化二窒素の排出量			t-CO ₂
ハイドロフルオロカーボンの排出量			t-CO ₂
パーフルオロカーボンの排出量			t-CO ₂
六ふっ化硫黄の排出量			t-CO ₂
三ふっ化窒素の排出量			t-CO ₂
合 計		33,070	t-CO ₂

備考1 原油換算量は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則(昭和54年通商産業省令第74号)第4条の方法により換算してください。
2 二酸化炭素排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(平成11年政令第143号)の第3条の規定により算定してください。
3 エネルギーの使用量の欄には、県内に設置している工場又は事業所並びに店舗におけるエネルギー使用量の合計を記載してください。

別紙 その2

1 地球温暖化対策計画の達成状況

【目標値の達成状況(進捗状況)】

令和4年度の消費原単位を基準として、令和5年度から令和7年度(3年間)まで毎年、前年度比の1%以上の消費原単位の改善を目標値としている。(令和7年度までに3%以上削減)

1) 前年度比

施設名(事業分類)	達成状況	前年度比 (%)	消費原単位	
			基準値	令和5年度
①附属病院(病院)	×	-3.8%	0.23080	0.23968
②矢巾キャンパス(大学)	○	6.2%	0.04023	0.03775
③内丸メディカルセンター(病院)	○	10.0%	0.03464	0.03118
④店舗棟(大学)	×	-0.5%	0.04728	0.0475
⑤やはばなかよし保育園(保育所)	×	-2.0%	0.05631	0.057432
⑥本町キャンパス・上田地区(大学)	○	8.7%	0.003057	0.00279
⑦医療専門学校(専修学校)	○	11.4%	0.01003	0.00888
⑧木の花会館(管理等を行う事業所)	○	25.0%	0.00756	0.00567
⑨ドクターヘリ基地ヘリポート 旧PET・リニアック先端医療センター(病院) 旧花巻温泉病院(病院)	○	19.6%	0.006433	0.005172

※原単位算出方法

- ・エネルギー使用量(KI)/延床面積(千㎡)×稼働日数(日) ①
- ・エネルギー使用量(KI)/延床面積(㎡) ②、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨
- ・エネルギー使用量(KI)/延床面積(㎡)×稼働期間(年) ④

コメント(前年度比較 主な増減要因)

毎年夏期と冬期に大学全体で取り組む省エネ活動を実施している。

この活動による職員の意識の高まりが、不要な機器の停止、適切な温度設定などの取り組みの履行につながっている。8月の猛暑の影響があったが、①、④、⑤を除く施設で目標を達成した。

目標未達の①、④については、8月の猛暑の影響のほか、感染症対策の緩和により稼働率が上がりエネルギー消費が増える結果となった。

⑤については、夏期の気温が高く推移したことにより、エネルギー消費が増える結果となった。

省エネへの取り組み以外に機器更新などを引き続き検討する。

【具体的な取組状況】

○省エネルギー

1) 省エネルギー啓発活動について 評価:○(達成)、×(未達成)、△(一部未達成)

評価	活動内容
○	①省エネ活動報告を学内報に掲載し、全学に周知する 令和5年11月号(夏季の省エネ活動報告)、令和6年5月号(冬季の省エネ活動報告)の2回掲載した。
○	②夏季は学内通知にて節電の取り組みを強化する 5/17開催の運営会議で報告し、5/30付けで通知文書を全職員向けに発出した。
○	③省エネパトロールを定期的実施する 月2回程度の定期巡回を行った。
○	④夏季と冬季にそれぞれエネルギー消費量調査を実施する 年2回(実施日:夏季8/1、冬期2/1)実施し、省エネ推進委員長まで結果を報告した。
○	⑤クールビズ活動の実施 活動期間を令和5年5月1日～令和5年10月31日とし、全学で実施した。
○	⑥公用車のアイドリングストップを推進する 各公用車に掲示済み。

2) エネルギー消費設備の運転管理について 評価:○(達成)、×(未達成)、△(一部未達成)

評価	活動内容
○	①設備の運転管理の適正化 スケジュール運転の確認、見直しを実施した。
○	②各設備の定期的な点検整備の実施 毎月予定表を作成し、点検整備の見える化を実施した。
○	③換気扇、排気口の定期的な清掃 実施した。
○	④学内各所の室温測定調査を実施する データロガーを設置し、定期的にデータを収集した。
○	⑤電力デマンド監視装置の活用 設定値を再点検し、電力デマンドの把握をした。

○	⑥エレベーターの運転時間の見直しを実施する 運転時間、休止時間について再確認した。
△	⑦室内環境測定結果による適切な外気導入量の設定 感染症対策の緩和が進んだこともあり、適切な設備の運転による省エネを実施した。
○	⑧照明のこまめな消灯 照明制御装置の設定変更及び省エネ活動でこまめな消灯を進めた。
○	⑨空調機の設定温度の緩和、消し忘れ防止 省エネ活動の取り組みに具体的な室温目安を明記、中央監視装置による時間外の運転停止設定を行った。
○	⑩事務機器の省エネ設定の活用 学内通知で省エネ設定の活用をお知らせした。
3) 高効率化に向けた改善 評価:○(達成)、×(未達成)、△(一部未達成)	
評価	活動内容
○	①直管型蛍光灯をLED灯に更新する 内丸メディカルセンターにおいては、照明の修理に直管型LEDランプを使用した。
○	②制御装置の設定を見直す 機器の適正運転のため、設定値の見直しを実施した。
○再生可能エネルギー(再エネ設備導入、再エネ由来電力の調達) 矢巾キャンパスへ太陽光発電設備の増設を検討中である。(オンサイトPPAまたはリースによる設備の導入)	

備考 計画書に記載した各種取組の進捗・達成状況について記載してください

2 その他の地球温暖化の対策の実施状況

- ・ごみの分別回収の徹底について
廃棄物管理マニュアルに則り、各施設毎に適切に廃棄している。
- ・コピー用紙の使用量の削減について
学内通知等の印刷物全般において、メールまたはホームページへ掲載することで紙の使用を抑える取り組みを行っている。